日本商工会議所
The Japan Chamber of Commerce and Industry

業種別の動向

前月と比べたDI値の動き　改善　ほぼ横ばい　悪化

建設業

各種コストの高止まりや人手不足の影響などを受け、悪化。一部事業者からは、工事費の上昇に伴う計画の延期や中止による施工件数の減少や、工事規模の縮小を余儀なくされているとの声が上がっている。

- 「資材価格や人件費の高騰に伴い工事費が上昇しており、計画の延期・中止等による施工件数の減少や、工事規模の縮小が生じている」（一般工事業）
- 「担い手不足が当地の建設業界に大きな影響を与えている。多くの地域企業では採用や人材育成に投資してきた経験が乏しいため、行政と連携し、企業および求職者双方の意識変革を促す取り組みが必要と感じる」（リフォーム工事業）

製造業

AI・半導体関連の引き合い増加や一部での価格転嫁の進展等により、改善。一方、先行きについて、一般消費者向け製品を中心に値上げ後の需要減少が懸念されている。

- 「半導体やデータセンター向け案件が急増。競争によりメモリ価格の高騰やプリント基板の入手困難が、製造の妨げになっている」（電気機械器具製造業）
- 「中東情勢や円安による原材料価格の上昇、人件費・設備維持費の上昇に伴い価格改定を実施。公正取引委員会の指導や取引適正化法を背景に、得意先との交渉はスムーズに進んだ。価格転嫁は実現したものの、値上げに伴う今後の売上低下や受注への影響を懸念している」（鉄鋼業）

卸売業

一部で価格転嫁に進展が見られるものの、物価高を背景とした節約志向の高まり等により需要が冷え込んでいることなどから、ほぼ横ばい。

- 「価格転嫁は進展したが、販売量の減少により採算は横ばい。来年４月の食品の消費税減税に伴うシステム改修の負担増加が懸念される」（飲食料品卸売業）
- 「前年度に発生したWindows11移行に伴うPC更新需要の反動に加え、物価高の影響により民間の設備投資意欲は減退傾向にある。投資の優先順位としては建物修繕などが先行しており、OA機器関連の設備投資については先送りが生じている」（機械器具卸売業）

小売業

物価高に伴う節約志向の高まりから、消費者の選別志向が強まり来店頻度や買い上げ点数が減少していることに加え、天候不順による客数の減少も重なり、悪化。

- 「物価上昇で節約意識が高まり、食品の質を重視しない消費者が増加している。また、天候不順の影響で農作物価格が不安定である」（野菜・果実小売業）
- 「値上げの影響により売上は前年実績を上回っているが、消費動向を示す客数や買い上げ点数は減少している。加えて、ゲリラ豪雨をはじめとする悪天候が客足の減少に拍車をかけている」（総合スーパー）

サービス業

人手不足やコスト高に加え、物価高に伴う消費マインドの冷え込み、さらには災害や天候不順の影響も重なり、悪化。飲食店からは、来年４月以降の飲食料品の消費税減税に伴う来店客数の減少を懸念する声が多く聞かれている。

- 「医療・半導体関連や災害支援物資など一部で荷動きは見られるものの、深刻な運転手不足に加え、燃料価格の高騰に伴い収益は悪化している」（運送業）
- 「熊本地震の影響による観光客の激減に加え、夜間の宴会自粛ムードの長期化が重荷となっている。九州ふっこう応援割などの観光支援策による会食需要の回復に期待したい」（飲食店）